

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

白馬村

No.	事業項目	事業名
1	森林を支える豊かな地域づくり	緩衝帯整備
事業費 891,000 円 (うち支援金: 891,000 円)		

事業目的

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

近年、有害鳥獣が里に出没していることから、里山の森林を整備することにより見通しを良くし、野生鳥獣の出没しにくい環境を作る。また、これらの里山は観光地周辺であるため、早急な森林整備が必要である。

(2) 本事業の目的

農作物の被害の防止と地区住民及び観光客の安全を図る。

事業内容

(1) 実施場所 八方口 (木流川周辺)

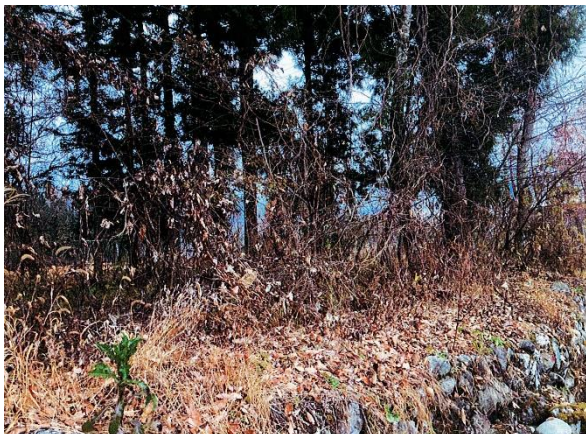
(2) 対象者 地区住民及び観光客

(3) 実施方法 見通しの悪い里山において立木の 2 割程度を間伐するとともに、下層に繁茂する灌木等の整理を行う。なお、自然の景観を破壊しないよう留意する。

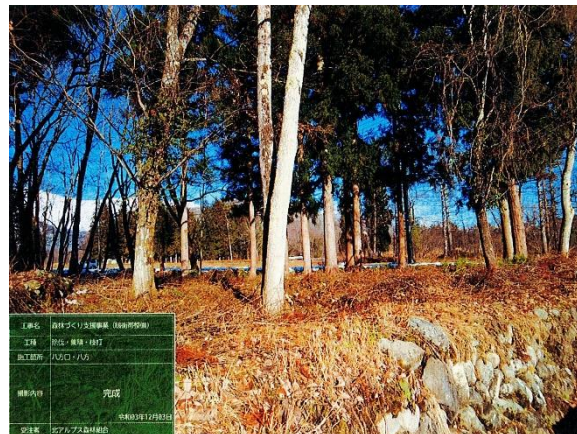
(4) 事業目標及び当年度事業量

①全体計画 (平成 30～令和 4 年度) 村内 8 箇所 7.5ha の緩衝帯整備

②令和 3 年度実績 村内 1 箇所 2.1ha の緩衝帯整備



着手前



完了後

事業効果

(1) 事業実施による効果

緩衝帯整備の実施により、見通しの良い里山とすることにより、野生鳥獣の出没を減少させ農作物被害の減少を図る。また、観光施設等の利用者への野生鳥獣による人身被害の予防を図り、安全な環境を確保する。

(2) 継続性

継続的に緩衝帯整備を実施することにより、村内一円で「野生鳥獣が出没しにくい里山」の整備を進める。

(3) 普及性

緩衝帯整備の実施により、野生鳥獣の出没が減少することによって、地域住民への森林整備の必要性を普及することができる。

事業の検証及び評価

(1) 目標に対する成果の状況

計画的な緩衝帯整備を継続することにより、集落周辺への野生鳥獣の出没を減少させ、農作物への被害減少と人身被害の予防を図ることができた。

(2) 課題

農作物被害の更なる減少と人身被害の予防を徹底するため、地元からの要望に基づく緩衝帯整備を計画的に継続する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

緩衝帯整備は野生鳥獣の集落や農地への出没を減少させるために効果的な手法であることから、的確な事業地選定を行いながら事業を継続する。

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)